

今回は、学校推薦型選抜を活用した進路実現の報告その2です。

◇ 岐阜大学医学部医学科の合格体験記（田中里佳さん）です！

私が岐阜大学医学部の地域枠推薦を視野に入れ始めたのは、中学3年生の時です。その頃から様々なセミナーに参加し、地域枠推薦入試の制度を知りました。そして、その制度を活用して受験し、合格することができました。その実現には、次の3つのことが役に立ちました。

1つ目は日々の学習こそ大切にすることです。

基礎力をしっかりとつけようと、まずは日々の授業を大切にし、課題は必ずやりきりました。これは当たり前のことなのですが、時間がない時や気持ちが上がらない時もありました。しかし、受験勉強をする中で、基礎力の大切さを実感していたので、絶対に続けようと強い気持ちをもって頑張り続けました。さらに、その定着を確かめる定期テストには特に力を入れて取り組みました。その分、本格的に受験勉強を始めた時期は早かったとは言えません。しかし、学校での勉強の一つひとつを大切に基礎力を積み上げて来たおかげで、伸び悩んでいた苦手科目も最後まで諦めずに勉強し続けることができ、力を伸ばすことにつながったと思っています。

2つ目は夢や目標を持って自分の進路について考え、その実現のための行動をおこすことです。

私は、医療に関わる情報を得られるように、社会連携セミナー・さくら塾や、病院見学会などに参加し、自分の進路選択に関わる知識を広げる機会を大切にしてきました。右上写真は、今年度実施のさくら塾の様子です。岐阜大学医学部附属病院の大野康先生（本校同窓生）、乾俊哉先生（関市出身）をお招きしてのセミナーを拝聴しました。座談会では、私たちの質問にひとつひとつ丁寧に答えていただきました。右下写真は、昨年度実施の「関レディースクリニック」（産婦人科）の病院見学の様子です。この見学会は、岐阜新聞社・関レディースクリニック、関高等学校が連携した「子宮頸がん啓発キャンペーン」の一環として行われました。

こうした取り組みの中で、医師という仕事に関する知識を増やし、心構えを培うことができました。さらに、岐阜大学医学部医学科で学ぶ先輩方からお話をうかがい、推薦入試のシステムや評定などの出願要件について知ることができ、その時から、本格的に地域枠推薦入試を受験するという目標を固めて努力しました。

また、様々な大学、学部をいろいろ調べました。コロナ禍で制限がありましたが、オープンキャンパスに参加したり、資料を取り寄せたりして、受験校を絞りこめるようにしました。これにより、進路実現への見通しをもつことができたし、苦しい時も、目標があるからこそモチベーションを上げて頑張れました。情報を得ることで薬学の分野にも興味が湧いてきて、受験先に迷いが出てきた時期もありました。そんな時、担任の先生と相談したり、友達に話したりすることで、本当に自分のやりたいことが分かってきました。なかなか自分のやりたいことが見つからない人や、進路に迷っている人もいますが、早くから積極的にさ



くら塾やオープンキャンパスに参加するなど、進路研究をすることで何かヒントになるものが見つかると思います。また、先生や友達に相談することもとても良いことだと思います。

3つ目は、FRH活動に力を注いだことです。

私の場合は、2年次の「総合的な探究の時間」の中で、地域の食材を生かした「地産地消弁当」をテーマとした実践的研究を行い、校内発表会では英語によるプレゼンテーションを行いました（右写真）。

さらに家庭クラブの活動の一環として、オーストラリアの高校、モンテ・セイント・アンジェロ・カレッジとオンライン交流会を行い、関高生提案の米粉レシピを使って調理実習を進めました。下段の2枚の写真はその時の様子です。本校同窓生のシェフ、小瀬木周司さんのご指導の下、オーストラリアの高校生と英語でコミュニケーションを交わしながら、楽しく調理実習を行いました。



勉強と並行してFRH活動にも力を入れて取り組むというのは大変かもしれませんが、自分で課題を見つけ、分析し、解決するために何ができるか考える課題解決能力は大学で求められるものであり、社会に出てからも活かされる力だと思います。

実際、推薦入試の面接でも、自分の課題研究についての説明をするように求められました。活動にきちんと取り組んでいたおかげで、自信を持って話すことができました。FRH活動は、関高だからこそ取り組める、とても価値のある活動だと思うので、大切にしてほしいと思います。

受験勉強をしていく中でつらいこと、不安になることもあると思います。特に共通テスト前の1ヶ月間は、不安と緊張で本当に苦しかったけれど、これまで頑張ってきたことを信じてひたすらに勉強し続けました。また、まわりには、自分と同じような状態で努力し続けている仲間、私たちの受験勉強を全力でサポートしてくださる先生方、そして家族がいました。私も1人では絶対にここまで頑張ることはできませんでした。まわりの人達の支えがあったからこそです。だから、そのような環境があることに感謝し、目標の実現のために最後まで諦めずに頑張りたいと思います。応援しています。

